



## 冤罪 再審 布川 無罪!

### 自白の強要が問題だ! 取調べの全面可視化を!

えん罪布川事件の再審で水戸地裁土浦支部は5月24日、杉山卓男さんと桜井昌司さんに「無罪」判決を言い渡した。

再審判決にあたり、裁判所前には傍聴券を求めて1,053人が列をなした。また、足利事件で無罪となった菅家さんも駆けつけるなど、300名近い支援者が集まった。杉山さんは「無実を得て、今後もあらゆる冤罪を晴らすために努力したい」と述べた。

J R 総連も支援を続けてきた冤罪布川事件の今回の無罪判決を、取調べの全面可視化や司法の改革、さらにはJ R 浦和電車区事件の無罪に向けた大きな足がかりとしたい。



【布川事件】1967年8月、20歳と21歳の青年が強盗殺人で囚われの身となった冤罪事件。下された判決は無期懲役。最高裁の棄却で確定した。二人は無罪を主張し、一回目の再審請求は棄却。そして獄中生活29年を経た1996年の仮釈放後、2001年の第2次再審請求では、検察の特別抗告を最高裁が棄却し、再審が確定した。

# 布川事件 雪冤



桜井昌司さん  
念願が叶った！

杉山卓男さん

再審無罪 しかし...これでいいのか！警察・検察・裁判所

前審で検察は、強要の部分を外して自白場面のみで録音テープを編集し、目撃証言を加えて立証した。

今回の判決の詳細は徐々に明らかになっているが、判決文では検察の証拠隠しや録音テープの編集を認めているという。検察の証拠捏造は許されない。しかし、再審でありながら、当時の司法判断の誤りに踏み込めず、裁判所を裁けない裁判所という構図に歯がゆさを感じる。誰が何故、どのように冤罪をつくったのか 警察・検察だけでなく、裁判所の責任も問われなければならない。ぜひ、国家賠償訴訟でその点も明らかにしてもらいたい。

労働組合破壊がその目的のJR浦和電車区事件では、裁判所は、一、二審で事実認定を翻し、悪意をもって有罪判決を下した。都合のいいテープの反訳、意識もうろうとした中での強要による自白調書の採用など、布川事件同様に許されない行為で有罪とした。私たちは何としても上告審での弁論開廷で無罪を勝ちとらねばならない。



仮釈放以降、15年にわたり二人を取材し、ドキュメンタリー映画『ショージとタカオ』を製作した井手洋子監督から、JR総連に以下のコメントが届きました。

「仮釈放になってすぐに、2人は記者会見を開き、「本当に自由になる日まで闘い続けます」と再審裁判をめざすことを宣言しました。それから15年。逮捕されてからは44年。やっと、やっと本当の自由になる日が来たと思うと、私も心が熱くなります。ショージとタカオのお二人がフツールのおじさんを目指して歩いて来た道のりをあらためて振り返り、お疲れさま！よかったですねと、無罪になることを心からお祝いしたい気持ちです。しかしその道のりの、なんと長かったことか。なぜこんなに長くも長きに渡って「犯人ではない」と言い続けなければならなかったのか。この国の司法のありようを私たち一人ひとりがもっと自分ごととして考えていかなくてはならないとも思います。私自身は、『ショージとタカオ』という映画を通して、冤罪の現実と、その苦難に立ち向かう人間力と、2人を支え続けた人々の心を日本中の多くのみなさんに伝え続けていくつもりです。

井手洋子監督